

助成事業実施報告書

団体名 神奈川地域貢献支援協議会

代表者・役職名 氏名 河西 英彦

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

高校生による防災教育

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2014年6月12日 自然災害に備え、命を守るための活動を行う目的で団体設立
現在スタッフ3名、会員数7名、ボランティア20名ほどで活動しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

神奈川県内の高校生への、防災意識向上とユース防災リーダー育成を目的とします。
自然災害への備えとして、高校生たちが積極的に減災活動をおこなっていけるような人材育成事業に力を入れています。地域と高校生を結びつけることは地域の安全や防犯など含む、地域支援、地域の安心につながります、高校生自らが地域安全を意識して防災リーダーや地域リーダーになっていただくための高校生による福祉防災研修を行い、自らの成長を志していただきたい。地域は高校生を歓迎しています。
安全、福祉、防災を共に考える研修や交流を通して、地域を想いやる心を育むことを目的としています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

◎8月3、4日 宮城県における防災研修の開催
宮城県立石巻西高等学校にて、神奈川県の約10校の高校生・宮城県の高校生・兵庫県の高校生による合同防災研修を行いました。
◎10月28日 東北大学の斎藤幸男教授をお招きして、神奈川県立三浦臨海高校にて全校生徒対象の講演会・防災研修を行いました。
10月29日 大和市保健福祉センターにて 防災研修会 避難所についての想定訓練も同時に開催

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

神奈川県の高中生が宮城県への福祉防災研修35名参加、宮城県の高校生+松坂市の高校生+兵庫県の高校生等との180名程度による研修事業を8月に行えました。
10月は、神奈川県三浦市、県立三浦臨海高等学校において、全校生徒対象の福祉防災研修を開催できました、約700名の高中生と+教職員+地域自主防災会の方々もお呼びし、被災地での災害時の対応、学校現場における復興の様子、高校生の被災後の生活などのお話をお伺いしました。
今回参加いただいた高校生達は、地域リーダーとなる意思が強い子ども達です、学校でのリーダー研修などにも参加、教職員の方々からも大変素晴らしい生徒さん方の意識が変われた研修でしたとお話を多く頂戴しました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

高校生への福祉防災研修事業は大変大切です。この事業の継続が今後の地域防災の要になるユース支援と、地域支援につながり、継続していく事こそ地域防災の要になってきます。

継続し高校生はじめユースへの福祉と防災を考えていただける機会を増やしていく事が今後の課題と考えます。神奈川県ではユースへの防災教育を推進しており、地域や社協、行政と共に取り組む地域課題として、常に事業を展開していきます。

3月には被災地の高校生を神奈川県へ、また8月には神奈川県の高校生を宮城県への相互交流事業も継続します。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

10月28日（金）県立三浦臨海高等学校において、福祉防災研修を行う事ができました。

東北大学、特任教授 斎藤幸男 先生を講師にお招きして、三浦臨海高等学校の全校生徒対象の福祉防災教育講座と教職員対象の福祉防災懇談会を開催することが出来ました。

斎藤先生から、全校生徒さんへ、3.11被災地での出来事や、被災高等学校での当時の様子、当時避難所になってしまった様子などのお話、災害時などは大人の経験で判断する事ではなく自分で判断できる日ごろからの備えが大切であること、学校を再開するにあたり先生方の苦勞もあったが、生徒が（被災した生徒など含む）学校や、教職員を励まし、助けてくれたこと等、生徒さん方が先生や学校を支え、学校を作っていく（変えていく）ことができる、多くの方々に支えられ他お陰で、このようなお話を伝えていくことが、被災当時多くの方々に助けられたおかげである事などを、伝え、お話しいただき、多くの事を学んでほしいなどと、生徒さん方への福祉防災研修講演ができました。

また、教職員の皆さんにも、生徒への教育の大切さや、心のケアなどのメンタル面などの大切さなどを、先生方と共有し、お話しすることが出来ました。



神奈川県立三浦臨海高等学校 全校生徒対象福祉防災研修の様子



教職員との福祉防災教育についての懇談会も開催



先生方も真剣に福祉防災研修を考えていただきました。



(生徒さん方が作った、熊本への支援メッセージと 3.11 を語り継ぐ被災生徒さんの本)

また、斎藤先生から被災地の高校生などの活動（語り部や詩集、記録、メッセージなどの）内容などのご紹介や活動風景、災害ボランティア活動の紹介や被災地での出来事などや、特に旧大川小学校の悲劇にも触れ、被災現場へ神奈川県の高校生なども防災研修に多く訪れている、自分たちの地域や学校での教訓にしてほしいとのお話もいただきました。

神奈川県立三浦臨海高等学校、神奈川県教育員会、横須賀三浦地区高等学校保健委員会、その他関係者各位のご協力により、高校生へのメッセージと、高校生が考える福祉防災研修、教職員による福祉防災を考える会などが開催できました、本当にありがとうございました。

これからも高校生やユース、幼児から大学生までの福祉防災への推進活動を行っていきま
す、皆様からのご支援、ご協力を今後ともよろしくお願いします。

※真如苑 市民防災・減災活動助成金の支援事業です。

2016. 10. 31

主催：神奈川県地域貢献支援協議会